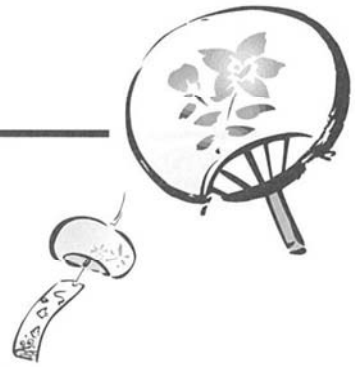
徒然つれづれ

置いてきぼり

きたの　だいち

寿命が尽きたのだろうか。パソコンのプリンターのことである。活字のかすれやずれが次第にひどくなってきた。家の用で使っている分には、さほどのものをプリントするわけでもないことからやり過ごしてきたが、年賀状の時節を迎えるころとなって、その思いがいっそう強くなってきた。年式はたしかに古い、とはいえ十年にはまだ間があり、取り立てていうほどには使っていないのだが。

●●●



徒然つれづれ

や資料をごみ箱に放り込んでみたが、空き容量の上からはほとんど効き目がなかったことから、普段、師と仰ぐ婿殿に教えを請いながら、プリンター側の機能を厳選し、甚だしいほどまでに容量を抑えた。これでようやくインストールできた。さっそくA四版での試し刷りである。またたく間に排紙トレイの上に流れてきた。音は立ったのだろうか。もちろん年賀状にもプリントしてみた。たしかに速い。そのスピードは秒針に目をやるまでもなかった。いまどきのプリンターは速くて静かなばかりか、デジタルカメラからのものを始め、スキャナーやファックス機能までもが組み込まれるなど隔世の感がある。

●●●

徒然 つれづれ

わが家の車はすでに四回目の車検を受け、それからでもさらに一年が過ぎようとしている。その内に、という思いを抱きながらディーラーの店を覗いてみた。座り心地を確かめ、フロントの計器類にうなずきながら車外にでて、羨望の眼差しで滑らかな線をなぞっていると、ふとアンテナがないことに気付いた。ぐるりと一廻りしてみたが…、ない！　オプションということはない。聞くは一時の恥、聞かぬは末代の恥とばかりに訊ねてみると、リアウインドーに張り巡らしたというじゃないか。電熱線と見分けがつかない線に、へえー、と感心しながら、これならアンテナを悪戯される心配がないかと引き揚げてきた。未だ、かたくなにオートマチック車を拒んでいる程度のものが、そもそも車にかかわることで、どきっも、へえーもないのだが。

●●●